のんびりゆったり
安曇野ぶらぶら
ガイドウォーク

安曇野 あづみの あるく路

NO.5

犀川の岸辺、坂と小路の街 明科を訪ねる

～水郷の町並みと歴史の交差点～

安曇野市の北東部、犀川・穂高川・高瀬川の三川合流地点にほど近く、豊かな水の流れを望むことができる岸辺に発展したのが明科の市街地です。近世から近代にかけて犀川を利用した水運「犀川通船」が開通して市街のはずれに船着場が設けられたり、昭和に入っては長野県の水産試験場が設置されるなど、水郷と呼ばれるに相応しい町の様子がうかがえます。

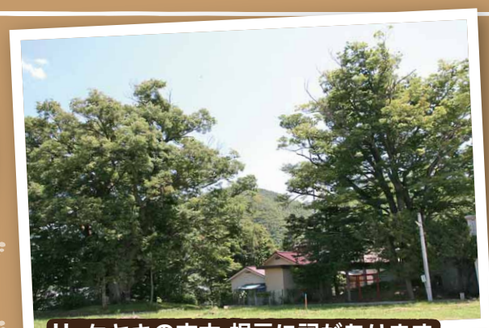
また貴重な考古学的発見として注目される明科廃寺跡が市街地で発掘され、近代には明治後期に篠ノ井線が開通し、南安曇から大北地方にかけての玄関口としても発展。そんな時代の古今を問わず地域の要所として人々を惹きつける街中は坂道や狭い裏路地も多く、山に囲まれた町でありながらもどこか海辺の港町のような風情も漂う、不思議な感覚を味わうことができます。

※平成 26 年度・長野県地域発元気づくり支援金を受けて作成されました。
※この地図は「安曇野あるく路」の資料として作成されました。
散策の際は歩きやすい服装を心がけ、車などの往来に十分注意し、各自で責任を持って行動してください。
また住宅敷地内などプライベートな空間への立ち入りは、慎んでください。

編集・発行 安曇野案内人倶楽部
〒399-8303　長野県安曇野市穂高5971−1(クラフトショップ安曇野内)
TEL：0263−88−5563　FAX：0263−88−5565
URL：http://azumino-guide.com　E-mail：info@azumino-guide.com

F カヌー競技会場

G 念仏供養塔


H ケヤキの古木 根元に祠があります

I 明科酒造

E 笹屋 明治 35 年創業の老舗菓子店

D 旧道（川手往還）

C 二十三夜塔・道祖神・庚申塔
道祖神：嘉永 5 年 (1852) 建立

B まちなかの裏路地

A 招魂社

のんびりゆったり
安曇野ぶらぶら
ガイドウォーク

安曇野 あづみの あるく路

NO.5

犀川の岸辺、坂と小路の街 明科を訪ねる

～水郷の町並みと歴史の交差点～

1 明科駅

明治35年（1902）開業。篠ノ井線の駅としては松本平の中で最北にあり、長野方面からやってきた場合の安曇地方の玄関口となる駅です。開業から昭和初期にかけては、安曇野特産のワサビなどを東京方面へ出荷する貨物や買付けの行商人などで大いに賑わったそうです。隣の西条駅に至る区間の潮沢はしばしば土砂崩れなどの災害が発生する難所でしたが、昭和63年(1988)に新線が敷かれ、廃線となった路線は現在ハイキングコースとして一部を整備開放。廃線ウォークとして市民や観光客の人気を集めています。
廃線敷きコースのガイドも承っています。詳しくは安曇野案内人倶楽部へお問い合わせ下さい。

2 平林醸造店

まちなかに残る和風建築の商店は味噌醤油醸造の老舗でした。現在は醸造していませんが、正面の屋根上に掲げられている商店看板が今もなお圧倒的な迫力を見せ続けています。この種類の看板が三連で飾られるのは珍しく、遠く県外から見学に訪れる人もいるそうです。

3 龍門寺

松声山龍門寺は曹洞宗の大町市大沢寺の末寺で、寺伝によれば永正元年(1504)開創とあり、本尊の聖観音坐像は鎌倉時代末から室町時代にかけての作と伝わっています。近世の明科は松本藩領外で、明治初年の松本藩主導の廃仏毀釈による影響を受けずに済んだため、廃仏を恐れて穂高方面から同寺へ持ち込まれた仏像が匿われたこともありました。
また門前には地域文化の足跡を残す石碑などが並ぶほか、明治期の篠ノ井線開通工事に際し発生した事故の犠牲になった工夫の慰霊碑があり、往時の歴史を静かに物語っています。

●弔鉄道工夫死亡者之碑

明治34年(1901)10月建立

4 龍門渕公園

かつて犀川が今より東を流れていた頃、本流をさえぎるように岩が突出して大渦を発生させるなど難所として恐れられていたため、犀川の水霊として龍神「闇龗神（くらおかみのみこと）」を祀り、荒ぶる川を鎮めたのが現在この巨岩の上に鎮座している龍神宮です。日照りの折には雨乞いの祭祀もここで行われたそうです。

5 接吻道祖神

男女神が接吻をしている道祖神。ここから数キロ山の中へ入ったところに同一モデルのオリジナルが在り、この公園に据えられているのはそのレプリカとなります。道祖神のふるさとと呼ばれる安曇野にあっても異色の存在です。

6 犀川

北アルプスの槍ヶ岳が源流の梓川と木曽が源流の奈良井川が松本市内で合流する地点から犀川の名称となり、明科で高瀬川や穂高川と合流したのち、善光寺平で千曲川と交わるまで信濃川の支流として大河を形成しています。かつては松本と善光寺平を結ぶ水運事業「犀川通船」が営まれるなど地域経済の発展に貢献したほか、湖だった松本平を人の住める陸地に変えたという犀龍の話を描いた泉小太郎伝説など、民話の世界にも数多く登場する歴史ある河川です。

7 あやめ公園

隣接する龍門渕公園とともに、初夏にはあやめが一面に咲き誇る公園で、開花のシーズン(6月頃)には毎年あやめ祭りが開催されて多くの人が観賞に訪れるなど、人気を博しています。

8 廣田神社

明科地区の産土神。創建年代は不明ですが、古くより地元住民によって大切に守られてきた神社。御祭神の御饌津命（みけつのみこと）は保食神（うけもちのかみ）＝食物の神様です。

●合社（元・奉安殿）

境内に立つ石造の社殿はかつての奉安殿で、第二次大戦終戦まで地元の国民学校（現・明南小学校）に建立されていたものを、昭和21年(1946)に同社へ移築したものです。現在はもともと境内にあった小祠の神々を祀る合社とされていますが、全国各地にあった奉安殿の大半が解体された中、こうして損壊もなくほぼ原形のままに残されている姿は、戦時資料としても貴重な存在といえます。

※奉安殿
御真影（天皇皇后の写真）と教育勅語を納めていた建物のこと。明治後期から大正期以降、全国の小中学校に向けて御真影が下賜され、昭和になってからは石造やコンクリート造の奉安殿を学校の敷地内に建築。戦前は四大節祝賀式典の際に全職員生徒が御真影に対する最敬礼と教育勅語の奉読が求められ、また毎日の登下校においても全職員生徒は奉安殿の前で最敬礼することが義務付けられていました。戦後、GHQの神道指令により奉安殿は廃止。各地で解体撤去が行われましたが、一部は他用途に転用されたり学校から近隣の神社境内へ移築されるなどして、現在に姿をとどめているものも存在しています。